

# 第1回真岡市公共施設等総合管理計画推進市民会議 議事録

■日 時：平成29年10月3日（火）13：30～15：00

■場 所：真岡市青年女性会館2階ホール

## ■次 第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員、職員の紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 議事  
(1) 真岡市の公共施設マネジメントについて
- 6 その他
- 7 閉会

## ■事前配付資料

真岡市公共施設等総合管理計画（冊子）  
真岡市公共施設等総合管理計画概要版パンフレット  
真岡市の公共施設マネジメント（会議資料）

## ■議 事

- 1 開会
  - ・事務局より、開会あいさつ。
- 2 市長あいさつ
  - ・真岡市では行政需要の拡大や市民の皆様の要望に応えるため、様々な公共施設を昭和40年代後半から昭和50年代にかけて整備した。そのため、近い将来、大規模修繕や建替えの時期を迎える施設が多く存在する。
  - ・施設の建替えにあたり、すべての施設を現状維持することは財政的に困難である。この課題に対して、真岡市では、市が所有する建築物や道路等のインフラを総合的に管理し、効果的かつ効率的に質の高いサービスを提供するために真岡市公共施設等総合管理計画を策定した。
  - ・今年度は、真岡市公共施設等総合管理計画の推進にあたり、具体的な実施計画となる真岡市公共施設再配置計画の策定に取り組んでいる。
  - ・真岡市における今後の公共施設のあり方について意見を頂戴したい。よろしくお願ひしたい。

### 3 委員、職員の紹介

- ・各委員、職員の自己紹介。

### 4 会長及び副会長の選出

- ・委員より、事務局案の提出を要請。
- ・事務局より、会長に三橋委員、副会長に豊田委員を提案。
- ・委員一同、賛同。
- ・会長より、あいさつ及び会議の非公開の提案。
- ・委員一同、賛同。

### 5 議事

#### (1) 真岡市の公共施設マネジメントについて

事務局：資料の説明。

会 長：資料 2 ページに市民会議の役割として、真岡市公共施設等総合管理計画の実施状況の検討とあるが、今年度の市民会議の協議内容について説明してほしい。

会 長：資料 2 ページに市民会議の役割として、真岡市公共施設等総合管理計画の実施状況の検証とあるが、今年度の市民会議の協議内容について説明してほしい。

事務局：今年度は、真岡市公共施設再配置計画の策定について委員の皆様から意見を頂戴したい。

また、建築物系公共施設の床面積の増減やインフラ系公共施設の個別計画（水道ビジョン、橋りょう長寿命化修繕計画等）の進捗状況については、平成 30 年 4 月以降の市民会議で提示する予定である。

会 長：市民アンケートの結果は、第 2 回市民会議で提示されるのか。

事務局：その通りである。

委 員：真岡市公共施設再配置計画では、市が保有するすべての施設について個別の方針を示すという理解で良いか。

事務局：今後の方向性が明確な施設は、個別の方針を示したいと考えている。また、複数の施設を 1 つのグループにまとめて方針を示すことも想定されるが、できる限り、個々の施設の方針を示したいと考えている。

委 員：真岡市公共施設再配置計画では、今後10年間の床面積縮減目標を定めることになっているが、現段階で優先的に削減する施設のイメージはあるか。

副市長：現段階では、優先的に削減する施設のイメージはない。建物の状況とサービスの状況等を踏まえて、基本的な方向性を定めた上で検討して

いきたいと考えている。

また、真岡市公共施設再配置計画では、床面積の縮減だけではなく、指定管理者等の導入により、維持管理・運営費の削減も検討したいと考えている。

副会長：東沼小学校は、児童数の減少により山前小学校に統廃合されるが、山前小学校は、児童を受け入れるために新たな校舎を建設している。廃校の一方で、新たに校舎が建設されることに違和感がある。例えば、スクールバスを運行して、児童数の多い学校から、児童数の少ない学校に児童を輸送するような人的移動により、児童数の減少による統廃合を止めることはできないだろうか。

委員：事務局の説明を聞いて、今後の財政負担は大変であると感じた。また、学校の保有量は、全体の 50%以上であり、少子化が進む中で真剣に考える必要がある。

人と人とのつながりは、お金に代えがたいものがある。教育は、将来的に効果が出てくるものである。

廃校となっている長沼地区の小学校は、環境が良い場所にあるが使用されておらず勿体ない。女性の社会進出が進む中で、児童が放課後を安全に過ごせる環境が必要である一方、様々な経験ができる場が必要である。放課後の過ごし方として、お年寄りと触れ合えると良いと感じる。長沼地区の廃校を上手く活用できないか検討してほしい。

委員：資料 9 ページに、真岡市人口ビジョンの将来推計人口が示されているが、年少人口があまり減少しないという推計値になっている。真岡市公共施設再配置計画の策定にあたり、真岡市人口ビジョンの将来推計人口を基に検討するのか、現状の人口減少を基に検討するのか十分に考える必要がある。

会長：人口ビジョンは、一定の条件を設定して推計したものである。人口ビジョンで示された理想的な数値で検討するのか、より現実的な厳しい数値で検討するのか教えてほしい。

副市長：真岡市人口ビジョンは、行政の基本となる将来推計人口である。真岡市公共施設再配置計画は 5 年、10 年で見直しを行いながら運用していくものであり、将来推計人口の見直しに合わせて、再配置計画も実態から乖離しないように修正しながら、運用することを想定している。

会長：最初から 40 年先の将来推計人口で検討するのではなく、現実の動向を踏まえながら検討するというところで理解した。

委員：近年、社会福祉法人のあり方・役割が問われており、これまで以上に

地域の福祉サービスに貢献する必要があると考えている。そのため、地域内の資源である公共施設を上手く活用させてもらいたいと感じている。

子ども、お年寄り、障がい者を一体的に支援できる体制が無いかと検討している。先ほど委員から発言のあった廃校を活用して、人が集まれる場所（地域福祉の拠点）とし、自然に子ども、お年寄り、障がい者が触れ合える場所になればと思っている。

委員：大内地域は広く、中央と東と西に小学校があるため、児童数が少なくなっている。教育の質等のメリット・デメリットを勘案すると統廃合に賛成の時期もあったが、仮に大内中央小学校に大内東小学校と大内西小学校を統廃合した場合、通学のためにバス利用が必要になり費用の問題が発生する。

集会施設については、地域の小さいコミュニティ及び利用頻度に比べ多すぎる気がする。

児童施設に関して、千葉県では学校の中に児童施設が入っており、教育と学童福祉が一体的になっている施設があり、真岡市でもそのようなまとめ方はできないか。

また、児童施設として幼稚園がよく使われているが、児童が遊ぶには幼稚園の敷地では狭く、教室に押し込められている状況である。そのため、学校施設に児童施設を複合できないかと考えている。

委員：公共施設の利用状況について、予約されているが、実際は利用されていない場合があり、実際に使いたい人が使えない状況がある。例えば、地域の重要なイベントを行う人が優先的に利用できるようにするといった優先順位の導入等を検討してほしい。

事務局：市民会館の仮押さえの実態については、今後、実態について調査し、内容によって優先順位を設定する等の方法を検討したい。

委員：市民会館の大ホールは、現在、大ホールとリハーサル室がセットで貸し出されているが、リハーサル室だけの貸し出しがあると良い。

また、スポーツ会館は、何も使っていない部分がある。そのような場所は真岡市の中に沢山あると思うため、何も使っていない部分を一般に開放してはどうか。

会長：真岡市公共施設再配置計画の策定をきっかけに、公共施設の予約システムなども含めて仕組みを見直していくことが重要である。

委員：観光面から施設の統廃合について考えてほしい。例えば、公民館や学校を統廃合し、廃止された施設を民間活力の導入により、宿泊施設や

飲食施設にすることが考えられ、施設の利用率の向上が期待できる。今後の高齢者の増加に対して、例えば、学童保育で高齢者を活用することで、雇用の場の創出とともに、働きに出られる女性が増えるアイデアもある。

委員：民間のマンションの場合は、建設時に事業計画を作成して、定期的に修繕を行っている。小まめに修繕することで経費を削減できると思われる。

副市長：真岡市でも、公営住宅など既存施設において長寿命化計画を策定しているものもある。

委員：スポーツ施設は、真岡市の中心部に集中しつつあるが、それ以外の周辺にあるスポーツ施設も老朽化が進んでいるため、新しい施設ができることによって、新しい施設の利用が加速すると考える。上水道が無い地区もあり、利用する水質の悪化が進んでいる。適正含水量が10%以下の亜硝酸性窒素が場所によっては10%を超えている状況である。この亜硝酸性窒素は煮沸しても消毒されないため、0歳児には市販の水を与えている。真岡市公共施設再配置計画ではインフラ設備について具体的に触れないかもしれないが、上水道のない地区の現状を認識してもらいたい。

委員：公共施設は、使用目的が限定されているため、自由な発想で使うことができない。例えば、林の中で長期間の活動を通してツリーハウスをつくれるような施設や、除却予定の施設の壁に絵を描けるような活動ができないか。

## 6 その他

- ・事務局より、今後の日程等について説明。

## 7 閉会

- ・事務局より、閉会あいさつ。

(以上)

## 真岡市公共施設等総合管理計画推進委員

No.	区分	推薦団体等	氏名
1	有識者	宇都宮大学名誉教授	三橋 伸夫
2		株式会社あしぎん総合研究所	荒川 貴之
3	地域	真岡市自治会連合会	豊田 征巳
4		真岡市女性団体連絡協議会	本田 幸子
5	社会教育・文化	真岡市社会教育委員	秋山 康雄
6		真岡市文化協会	伊巻 由美子
7	スポーツ	真岡市体育協会	佐藤 正
8	子育て・学校	真岡市子ども会育成会連絡協議会	荻野 徹
9		真岡市子ども・子育て会議	横田 康子
10		真岡市PTA連絡協議会	青木 圭太
11	商工観光	真岡市観光協会	川田 英治
12	一般公募	公募委員	中澤 徳光
13		公募委員	日下田 ゆかり

## 事務局

1	真岡市	市長	石坂 真一
2	真岡市	副市長	嶋田 寛
3	真岡市	教育長	田上 富男
4	真岡市	総務部長	増山 明
5	真岡市	総務部付参事	高橋 則夫
6	真岡市	市民生活部長	野澤 雅孝
7	真岡市	健康福祉部長	佐藤 厚
8	真岡市	産業環境部長	成毛 純一
9	真岡市	建設部長兼水道部長	関 康雄
10	真岡市	会計管理者	関 一美
11	真岡市	議会事務局長	小池 敏之
12	真岡市	教育次長	添野 郁
13	真岡市	企画課長	加藤 敦美
14	真岡市	企画課長補佐	水沼 保彦
15	真岡市	企画課管財係長	一ノ瀬 幸人
16	真岡市	企画課主査	田崎 雅治
17	真岡市	企画課主査	関 亦謹仁